

群 教 七	G15 - 01
	令元.271集
	高-キャリア

令和元年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社上毛新聞社

長期社会体験研修員 林 昭紘

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社上毛新聞社は、前橋市古市町に本社があり、県内各地域に13の支局及び東京、大阪に支社をもつ企業である。上毛新聞（明治20年創刊）の発行を主な事業としており、発行部数は約30万部、県内シェア約4割を誇る地方新聞社である。地域のきめ細かな情報提供を重視し、本紙とスポーツ紙の2部構成で、業界でも珍しい紙面構成である。現在は新聞発行事業のほかにも各種大会やイベントの主催などの社会貢献事業、NIE（教育に新聞を）とNIB（ビジネスに新聞を）の推進事業やデジタルサイネージにも力を入れている。

2 研修先での主な研修内容

(1) 前橋支局での研修【4月1日～6月15日・12月16日～3月25日】（研修場所：前橋市役所内記者クラブ）

前橋市内で行われる展覧会や講演会などの催し物、市長の記者会見や画家の個展などの取材活動を行った。また、専門学校の競技大会や高齢者のクラブ活動の発表会、週面と呼ばれる企画記事を担当した。取材方法や記事の書き方、専門用語など記者に必要な基礎的な力を付けるための研修を受けた。

(2) 運動部研修【6月16日～12月15日】（研修場所：本社）

夏の高校野球を中心として、各種大会やスポーツ関連イベントの取材活動を行った。中学校や高校の総合体育大会、群馬ダイヤモンドペガサスや群馬クレインサンダーズの選手、フェンシング競技でオリンピックに出場する選手などへの取材を行った。

(3) NIE・NIB推進委員会での研修【10月1日～1月24日】（研修場所：本社）

「教育に新聞を」「ビジネスに新聞を」の理念で上毛新聞社でも取り組まれているNIE・NIBの研修を行った。授業に新聞を取り入れている県内の小学校への出前授業や、社内研修において新聞を取り入れている企業への研修に同行し、運営を補助した。

(4) ビジネス開発室での研修【12月9日～12月13日】（研修場所：本社）

FMラジオ放送局に提供するニュース原稿の作成や、上毛新聞のWebサイトに記事を掲載する業務に取り組んだ。新聞社では、県内金融機関へのデジタルサイネージの提供等、紙面作成以外の事業にも努力し、新しいビジネスの開発を試みるなど、将来を見越して、新しい企画や収益モデルを考える方法について学んだ。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

記者活動の経験を基に、「コミュニケーションの大切さ」をテーマに、高校生向けのリーフレットを作成した。取材では相手から価値の高い情報を引き出すために様々な工夫をしている。学校生活では、コミュニケーション能力を高めるためには、何を心掛ければよいか、この能力を高めると学校生活がどのように変わるかについて伝える内容とした。

(2) 実践の概要（県立高崎商業高等学校）

授業実践

題材名 「自他の個性の理解とコミュニケーション能力の育成」（特別活動）

対象 商業科第1学年1～7組 283名

自他の個性の理解とコミュニケーション能力の育成を題材として授業を行った。新聞社での業務の説明を行い、その中でも取材活動で学んだインタビュー実践を通して自他の個性の理解とコミュニケーション能力の育成を図った。インタビュー実践では、上毛新聞社の社員からのアドバイスを基に実践を行った。クラスメイトとペアになり相手の考え方を聞き出し、その中で自分自身の考えを再確認する作業を行った。また、コミュニケーション能力を育成するために、相手から多くの意見を引き出すことを主眼に置きながら進めた。新聞記事を読み、4人グループで意見交換をする時間を設け、一つの事象に対する互いの感じ方を発表し、互いの理解を深めた。

II 研修成果

1 前橋支局・運動部の業務について

記者活動では、取材と写真撮影、記事の執筆を行った。上毛新聞社では30万の部数が日々発行され、執筆した記事は30万人以上の目に触れることになる。価値のある正確な情報を伝えるためには、取材先や取材する内容について事前に勉強して調べ、多くの内容を話してもらうために傾聴し、取材後には文献などで確認をしている。取材先に興味をもち主体的に準備することや、考える力、コミュニケーション能力の重要性を実感することができた。教科指導の場面においても、教材研究を十分に行うこと、生徒とのコミュニケーションを取ることが授業づくりの基本である。さらに、授業の展開場面では、生徒が発表する場面が増えている。情報を伝えるための心構え、情報の扱い方（収集・整理・分析・発表等）、コミュニケーションの取り方等、研修の経験を生かしたい。

2 NIE・NIB推進委員会の研修について

NIEの活動では、出前授業を行う学校と何度も綿密に打合せを行い、子供の実態や学校の要望に応じた独自の教材を作成している。新聞記事を見る視点、教材化する方法、授業における展開について学ぶことができた。新聞記事の内容は多面的に捉えられるものが多い。学校でも、クラスや学年のHR活動等で、生徒の実態に合わせて記事を活用し、生徒の社会性を身に付けさせたい。また、教科指導では、学習している内容を実社会との結び付きを意識させることに活用していきたい。

3 キャリア教育実践について

授業実践では、コミュニケーション能力を育成するためには、どのようなスキルが必要となるのかを考えさせた。記者活動を通して学んだ、取材相手の話を傾聴すること、ノンバーバルコミュニケーションといったコミュニケーションスキルについて、インタビュー実践としての体験を通して伝えることができた。授業後のアンケートでは「人に認めてもらうことは、恥ずかしいけど意外とうれしかった」「友人が思った以上に、真剣に将来を考えていたことを知った」「表情があると初めての相手でも安心できる」など、人間関係づくりとコミュニケーションの大切さを理解させることができた。

III まとめ

新聞社では、正確な情報を発信するために、様々な部署が連携し、協力することで一つ一つの記事が作成されていることを学ぶことができた。一度発信された情報は、取り消すことが難しい。学校から情報発信する際は、個人で確認をするだけでなく、他の教職員との連携を図るなど本研修で得た知識を生かして、組織的に業務を行えるようにしたい。

また、記者としての取材活動を行う中で、様々な分野で活躍している方とコミュニケーションを取ることができた。さらに、前橋市内の取材を通して、改めて地域の魅力を理解することの重要性を学んだ。本研修で得た経験を基に、学校において生徒のコミュニケーション能力を高め、地域とのつながりを大切にする生徒を育成したい。

(担当指導主事 大野 慎一郎)